

令和9年産 仙台麦作情報

2026.9.8 第1号

宮城県仙台農業改良普及センター

Tel 022-275-8410 Fax 022-275-0296

<http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

◎年内の栽培管理のポイント

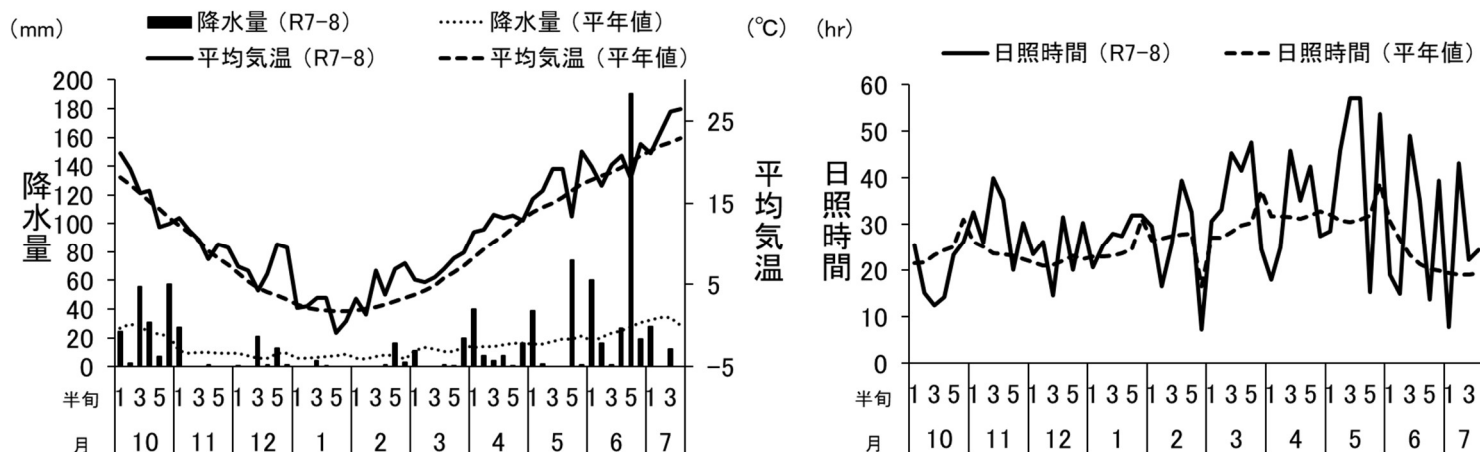
○湿害の防止⇒排水対策

○初期生育量の確保⇒収量・品質の確保⇒適期播種

○稈の強化、徒長防止⇒麦踏み

【令和8年産の総括（大麦）】

○気象経過と生育概況



麦作期間における半月別気象経過（仙台管区気象台：仙台アメダス）

<越冬前（播種～12月）>

- ・気温は、10月下旬は平年よりも低くなりましたが、概ね平年並か高く推移しました。
- ・降水量は10月中旬から11月上旬にかけて多くなりました。
- ・日照時間は、10月は少なく、11月以降は平年より多い傾向でした。

<冬期間（1月～2月）>

- ・気温は平年並か高い傾向で推移し、1月第5半月は平年よりかなり低くなりました。
- ・降水量は少なくなりました。
- ・日照時間は多く推移しましたが、2月上下旬は平年より少なくなりました。

<越冬後（3月～）>

- ・気温は3月以降、平年より高い傾向で推移しました。
- ・降水量は、特に4月上旬、5月上下旬は多くなり、収穫期頃も多くなりました。
- ・日照時間は、平年より多い傾向で、4月上旬はかなり少なくなりました。

○生育調査ほにおける収量調査結果

表1 収量調査結果（品種：ホワイトファイバー）

ほ場	年産	播種日 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	穂数 (本/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	全重 (kg/10a)	容積重 (g/L)	千粒重 (g)	精子実重 (kg/10a)
仙台市 宮城野区 岡田	R8	10/20	4/17	6/2	293	63	3.5	450	680	34.2	211
	R7	10/14	4/17	6/1	273	82	4.6	640	681	31.5	298
	平年値	10/11	4/15	5/29	331	86	4.7	849	684	32.7	447
大和町 落合 報恩寺	R8	11/15	4/24	6/5	408	90	4.6	1,370	696	36.5	650
	R7	11/13	5/1	6/9	310	90	4.1	1,010	685	34.3	451
	平年値	10/30	4/22	6/4	576	89	4.2	946	666	32.0	418

※平年値は3か年平均。仙台市ほ場では、幼穂形成期、減数分裂期頃にそれぞれ窒素成分 2.1kg/10a を追肥。

大和町ほ場では基肥一発肥料による施肥のみ（窒素成分 10kg/10a 程度）。

- ・仙台市のホワイトファイバーは、穂数は 293 本/m²（平年比 88%）と少なくなりました。また、千粒重は平年並でしたが、穂長が 3.5cm（平年差-1.2cm）と短く、精子実重は 211 kg/10 a（平年比 47%）と少なくなりました。精子実重が少なくなった要因として、播種期が平年より気温が低く、出芽が遅れたこと、降水量が多かったため、湿害により生育が抑制され、穂数が少なくなったこと等が考えられます。
- ・大和町のホワイトファイバーは、穂数は 408 本/m²（平年比 71%）と平年より少なくなりました。一方で、穂長が 4.6cm（平年差+0.4cm）と平年より長く、千粒重は 37g（平年比 114%）と多くなったため、精子実重（平年比 158%）も多くなりました。

【令和9年産の栽培管理】

1.ほ場準備

（1）碎土率の向上

- ・直径 2cm 以下の小土塊の作土における比率が **70%以上**を目標とします。
→**出芽率向上や除草剤の効果を最大限に発揮**させることにつながります。
- ・粘土質のほ場では、碎土率を高めすぎると播種後の降雨で土がしまりやすくなるので注意が必要です。



【写真】

左側が目標とされる碎土率 70%以上です。

（2）排水対策

- ・出芽前後は湿害を受けやすいので、転換畑では特に、播種前に明きよ・暗きよを施工して排水対策を行いましょう。

○明きよ

- ・額縁に沿って深さ 30～50cm 程度の溝を設けましょう
- ・明きよと排水溝は、必ず連結させましょう。
- ・排水不良のほ場は、ほ場内にも 5～10m の間隔で明きよを掘り、ほ場外へ排水できるようにしましょう。

○暗きよ

- ・本暗きよと補助暗きよを組合せて施工しましょう。
- ・補助暗きよは、弾丸暗きよや心土破碎が一般的です。

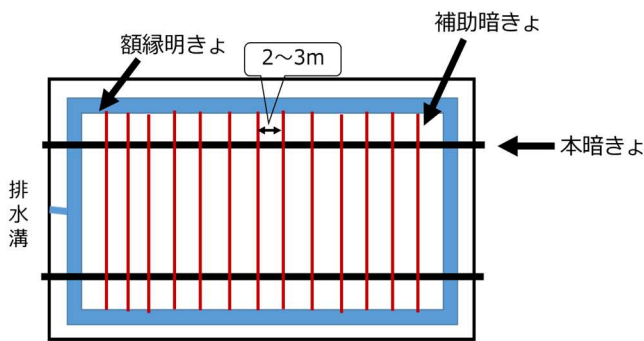


図2 排水施工の例

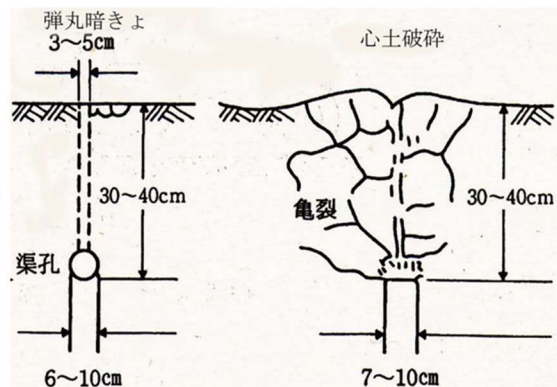


図3 弾丸暗きよ・心土破碎

(3) 土づくり

○酸度矯正

- ・大麦では pH 6.1～ 7.0、小麦では pH 5.6～ 6.5 と、微酸性～中性の土壌酸度を好みます。転換畑の土壌酸性は通常 pH 5.0～ 6.0 程度なので、酸度矯正は、大麦は小麦よりもさらに重要となります。

○地力増進

- ・堆肥等を投入し、地力維持に努めましょう。
- ・有機物は土壌の物理性の改善、微生物の増殖、緩効的養分供給の効果があります。

(4) 基肥

- ・「稲は地力で、麦は肥料でつくる」と言われるように、麦には稲より多量の肥料が必要です。麦の生育期間は長く、冬期に生育が一時停滞するため、麦の施肥は生育ステージに応じて必要量を分施しましょう。
- ・基肥では越冬前の生育量を確保し、越冬後の追肥では穂数の増加や1穂粒数・千粒重を高める効果があります。
- ・**基肥標準施肥量 (10a 当たり)**
 - N (窒素) : 8～10kg、 P (リン酸) : 8～10kg、 K (カリウム) : 10kg
- ・稲わらを鋤き込んだほ場では、窒素を 1～2 割増で施用しましょう。

- ・基肥を増量することによる生育促進効果は低いため、播種が遅れた場合でも、上記の基肥標準施肥量の範囲で施用し、生育の調整は追肥で行いましょう。

2. 播種

(1) 適期播種

- ・適期になり次第いつでも播種ができるよう準備を進めましょう。

播種適期

仙台地域…**10月15～20日頃**（晩限：10月30日）

黒川地域…**10月5～10日頃**（晩限：10月20日）

- ・播種が遅れると、次のような様々な影響が考えられます。

○播種遅れによる影響

播種の遅れは出芽の遅れにつながり、以下のような影響があります。

- ・初期生育量の不足 ・根張りの不良 ・茎数不足
- ・出穂のバラつき ・未熟粒の発生等

→結果として、収量と品質の低下につながります。

→適期播種を行い、越冬前に十分な生育（特に茎数）を確保しましょう。

※越冬前の目標茎数（目標収量 500kg/10a）：400～500 本/m²

気温の高い播種適期のうちに播種をすることで、分けつを確保しやすく、目標茎数の確保が容易になります。

(2) 播種量と播種深度

- ・播種量：250 粒/m²（重量換算したものは表2の通りです。）
- ・播種方法：ドリル播き
- ・条間：20～25cm、播種深：3cm が目安です。

※播種が遅れてしまった場合は、初期生育不良で 1 粒当たりの有効分けつ（茎数）が確保できないので、播種量を増やすことで出芽本数の確保に努めましょう。

表 2 播種量の目安

品種		千粒重 (g)	播種量 kg/10a
大麦	シュンライ	38.8	9.7
	ホワイトファイバー	36.5	9.1
	ミノリムギ	37.6	9.4
小麦	シラネコムギ	42.7	10.7
	夏黄金	40.4	10.1

3. 雑草防除

- ・令和8年産においては、ネズミムギ（イタリアンライグラス）などの雑草が多く発生しているほ場がありました。**必ず土壌処理剤を散布し、播種前の非選択性除草剤の散布なども組み合わせて防除しましょう。**
- ・土壌処理剤の効果を上げるためには、ほ場の砕土率を上げ、播種後早めの散布（出芽前まで）をしましょう。また、適度な土壌水分の時に散布しましょう。
- ・土壌が乾燥していると土壌処理剤が拡散しにくく、効果が低下します。土壌が乾燥している場合は、農薬の登録範囲内で水量を多くして散布しましょう。

4. 麦踏み（踏圧）

- ・麦踏みは、生育調節のための重要な管理作業です。特に冬期の乾燥、強風、暖冬時には、麦踏みの効果が高く現れます。
- ・遅播きの場合は、麦の生育量が足りず茎が折損する恐れがあります。過湿ほ場では、耕土を固結させて根の発育を阻害する可能性があります。いずれも逆効果となりますので、**麦の生育状況とほ場の状況に合わせて実施しましょう。**

表3 麦踏みの効果

効果	
○土壌	霜害・干害による被害の軽減 強風による土移動の軽減と防止
○麦	耐寒性・耐干性の強化 徒長や茎の早立ちの防止 分げつの増加 穂揃いの均一化 稈の強剛化

- ・麦踏みの時期は、一般的には離乳期（3～4 葉期）から茎立ち前（主稈長が 2cm 程度で、その際の幼穂長は 2mm 程度）までとなります。
- ・**1回目の麦踏みは、ほ場に凍結層ができる前（12 月上中旬）に行います。**また、生育のバラツキを解消するためには、生育が再開する起生期（3 月上中旬頃、平均気温 4℃）以降に行いましょう。幼穂長 3mm 以上の時期に麦踏みを行うと、生育抑制効果が強くなるため、注意が必要です。
- ・「ホワイトファイバー」は、「シュンライ」より倒伏しやすい品種ですので、**麦踏みを実践に実施しましょう。**

■令和8年秋の農作業安全確認運動実施中（令和8年9月1日から11月30日まで）
運動スローガン 「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」